



未来のために知っておきたい、 海とプラスチックの話

同志社大学経済学部
特定非営利活動法人プロジェクト保津川
原田禎夫

海洋プラスチック汚染をめぐる世界の流れ

G7エルマウ・サミット (2015.6)

- 海洋ごみ、特に**プラスチックごみ**が世界的課題であることを提起。翌年のG7伊勢志摩サミットでも引き続き首脳宣言で確認。

世界経済フォーラム（ダボス会議） (2016.1)

- 「2050年までに海洋プラスチックの総重量は、魚の総重量を上回る」と警告。

G20ハンブルク・サミット (2017.7)

- 「G20海洋ごみ行動計画」の立ち上げに合意。

G7シャルルボワ・サミット (2018.6)

- 「海洋プラスチック憲章」を承認、**日本は署名せず**。

第4回国連環境総会（UNEA4） (2019.3)

- 「2030年までに使い捨てプラスチック製品を大幅に削減」することをめざす閣僚宣言を採択。

G20大阪サミット (2019.6)

- 「G20海洋プラスチックごみ対策実施枠組」承認。2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまでにする「**大阪ブルー・オーシャン・ビジョン**」の発表。

出所：「サーキュラー・エコノミー及びプラスチック資源循環分野の取組について」（経済産業省・環境省）を基に作成

Key Word：プラスチック汚染 (Plastic Pollution)

- 海の生き物への深刻な影響
- 人間も無関係ではない
- 2050年には魚よりプラスチックの方が多くなる？
- ほとんどは、**陸から川を通じて流れ出した生活ごみ**。

あんなもの、こんなものからもプラスチック

- 東京湾のイワシの7割、大阪湾や琵琶湖の魚の4割から。
- 国内外のムール貝やカキ、ハマグリ の体内からも。
- 世界の食塩のほぼすべてから。
- ペットボトル飲料のほぼすべてからも。
- 世界の水道水の8割からも。

プラスチック汚染とは何なのか？
どうすれば防ぐことができるのか？

